

●水環境・モデル (2-B-09-1～2-B-10-2)

本セッションでは、流域からの汚濁流出、水域内での物質循環・生物活動に関するモデル解析に関する6編の発表がなされた。

2-B-09-1は、流域から河道に流入する懸濁物質の評価に関して、各種の流域情報に基づいて流出特性を分類・定量化する方法を提案、現地に適用している。近年、質・量ともに拡充されてきた流域情報のシステムティックな活用方法の構築は水環境分野においても重要であり、他の水質指標への適用を含め、更なる展開に期待したい。

2-B-09-2は、藻類の増殖抑制に対する沈水植物の効果についての発表であった。沈水植物が有する各種の機能を実験結果に基づいてモデル化し、試験水区での観測結果との比較からモデルの妥当性を証明している。広域な水域では沈水植物の現存量評価が容易ではないように思えるが、沿岸域での物質循環の解析手法としても興味深く、今後の発展に期待したい。

2-B-09-3では、琵琶湖における有機態物質の変化に関して、粒状態ならびに溶存態の易分解性/難分解性成分に分類したモデルを提案している。また、これによる解析によって湖内の挙動特性を明らかにしている。

2-B-09-4では、池田湖を対象にした水温・水質のモデル解析がなされている。過去に遡っての解析では、しばしば必要な情報の不足に直面するが、この研究では比較的良好な結果を得ている。情報の補完方法などのポイントなどをさらに詳しく教示いただきたかった。

2-B-10-1では、北浦における藻類の遷移を解析、モデルの妥当性を述べている。また、当水域の有害藻類の抑制手法として浚渫が効果的であるとしている。

2-B-10-2は、LASの微生物生態系に対する影響をマイクロコズムを用いた実験によって検討している。生産量/呼吸量比と生物相の変化結果に基づいた生態系リスク評価は興味深い。他の手法に比べ、ばらつきの少ない結果を入手し得るとのことであり、今後の進展を期待したい。

(長崎大・工 西田 渉)